

## 「水戸黄門を見ながら熱燗で一杯」

藤本 将

1月中旬花の村の有志4名で今年白寿を迎える相羽春一さんを訪問し、その詳細は伊藤さんの訪問記をご覧くださいなのですが、私はその中で強く印象に残ったことを記します。

食生活や体調管理に留意して、明日はさらにグレードアップしたいとの向上心はたいへん学びたいと思います。凡人にはそれがなかなかむづかしい。私に真似できるのは「水戸黄門を見ながら熱燗で一杯」ぐらいかなと思ったりもします。

ただ私と違うのは、焼き煮干をかじりながら熱燗で一杯やるという姿に1日を勤め上げた相羽翁の充実感が漂よっているに違いないと思うのです。そこには一人の風格ある老篤農家の姿があると思うのです。「学園花の村」では現在「布マルチ稲作」の普及に務めているが、今から10年以上も前になります。導入開始時相羽翁や橋爪さん(故人)の協力を得ました。最初は風で布マルチが流され布マルチを敷き直したり、軽トラいっぱいヒエを退治したという失敗談も残っています。しかしおかげで今では布マルチ農法を普及できる段階にあります。相羽翁は「学園花の村」の創設者である宮城翁(故人)とは近衛兵の1年後輩でその縁で「学

園花の村」の活動に参加し、農業指導の顧問格としてご尽力いただいております。また手先もたいへん器用で「倉馬の里」神社のしめ縄は毎年縄っていただいております。失礼な言い方ですがいわば「学園花の村」の貴重な財産です。どうぞ末永くご活躍ください。



元気な散歩です

## 白寿の相羽さんから若さをもろう

小関 栄

学園花のむらの創立者の一人相羽春一さんが、この度白寿を迎えられたのでお祝いに、この程仲間と一緒に自宅を尋ねました。

相羽さんは「農業と云うのは季節に応じてやるので、昨年、一昨年のカレンダーを参考にしながら今日、明日の予定を決めて仕事をしている。雨の日には好きな趣向品作りを続けている」。「毎日することが、次から次へとあつて忙

しい。それをこなしている内にこの歳になってしまった」「することがあるのは楽しい」「昨秋は大豆が大豊作(約四斗半の収穫)だった。豆を刈り取って日干しして精豆にするのに十日もかかったよ」。それは大変でしたと云うと「いや大へんとも思わない。毎日毎日たくさん収穫できた喜びでいっぱい、楽しい思いを十日間もした」「昨年は野菜を十五種類も作った。どの野菜も手を掛ければ掛ける程よく育つ」「毎年同じことをやっているようだが、前年より何時も工夫して見ると、効果はつき面だ。考えながらもつと良いものを多く作ろうと考えながらやっていると日が経つのも早いものだ」

こんな会話をしている内に、相羽さんは何時でも前向きな夢をもって、考え工夫しながら、楽しく働くことが生き甲斐になっている。これによって健康を保ち白寿を迎えることが出来たものだと感じました。この話を聞きながら金次郎の生き様と同じと思いつきながら、次の道歌を想い出しました。

蒔き植えて時に耕し草切りて

実り待つ身は楽しかりけり

相羽さんとの会話から、何事も前向きにとらえ、楽しく過ごすことが、若さを保つ最良の方法だと教えられた日でした。